

# 中世ポルトガル語テキスト *Vidas de Santos* における複合時制の分布

水沼 修

(東京外国語大学大学院博士前期課程)

## 1. はじめに

現代ポルトガル語は、直説法に現在完了<sup>1)</sup> (*tenho+p.p.*)、過去完了 (*tinha+p.p.*)、未来完了 (*terei+p.p.*)、過去未来完了 (*teria+p.p.*)、および接続法に完了 (*tenha+p.p.*)、過去完了 (*tivesse+p.p.*)、未来完了 (*tiver+p.p.*) の7つの複合時制を有している。このうち、文章語では、直説法過去完了と接続法過去完了の助動詞に *haver* が用いられることもある<sup>2)</sup>が、口語では助動詞には *ter* を用いるのが普通であり、このことは、他のロマンス諸語と比較して現代ポルトガル語の特徴の一つとなっている。

一般に、15世紀頃までは、*haver* が *ter* に対し優勢であったが、16世紀初頭になると、複合時制の助動詞として用いられる場合だけでなく、本来の所有の意味で単独の動詞として用いられる場合においても、その勢力関係は逆転したとされている(彌永1986)。また、中世ポルトガル語では、動詞が自動詞などである場合、助動詞には *ser* を用いた複合時制も使用されていたが、次第に姿を消し、現在では使用されなくなった<sup>3)</sup>。

本研究は、中世ポルトガル語の電子コーパス(CIPM)<sup>4)</sup>を利用して、こうした複合時制の分布が、実際のテキストではどのように見られるか調査していく。

なお、今回は、13世紀から14世紀にかけて書かれたとされる物語テキスト「諸聖人の生涯 *Vidas de Santos*」(以下VS)における複合時制について、特に助動詞に注目しながら、考察を試みたい。

## 2. 助動詞の種類と活用形

以下に、VS でみられた複合時制の例を助動詞の種類ごとに示す。表は活用形の分布を表し、例文はCIPMからそのまま引用してある。

<sup>1)</sup> 他に、「複合過去」や「複合完全過去」などと呼ばれることがある。Preterito Perfeito Composto の訳語については、例えば彌永史郎(1986)を参照。

<sup>2)</sup> 文体的変異であり、意味的な相違はないとされる。(Teyssier1976, Lapa1982)

<sup>3)</sup> *ser* の過去完了 (*fora*) + 不定詞、*ser* の未完了過去 (*era*) + 不定詞で「過去完了」をあらわすこともあった。(Huber1933)

<sup>4)</sup> Corpus Informatizado do Português Medieval (<http://cipm.fesh.unl.pt>)

[SER]

今回の調査では、*ser* を助動詞に用いた複合時制は 5 例見つかった。中世ポルトガル語で *ser*+*p.p.* の形になる動詞には、*ir*, *vir*, *chegar*, *partir*, *entrar*, *sair*, *nascer*, *morrer* などがあった (Brandão1963)。VS では、*chegar* (例 1), *levantar* (例 2), *vir* (例 3) の 3 種類の動詞が *ser* を伴って複合時制を形成している。

直説法現在形	1
直説法完了過去形	1
接続法現在形	2
不定詞	1
計	5

例 1) 助動詞 *ser* は直説法現在形

e logo pola manhã som chegado(s) ao altar sem reverencia e sem temor recebem o teu gl(or)ioso corpo. (F92v)

「そして、朝になるとすぐに(彼らは)畏怖の念もなく祭壇に近づき、あなたの誉れ高き遺体を受け取る」

例 2) 助動詞 *ser* は直説法完了過去形

El rrey foy torvado e levâtado da sua seeda chorãdo e foy fora della. (F133r)

「王は不機嫌になり椅子から立ちあがり泣きながら外に出て行った」

例 3) 助動詞 *ser* は接続法現在形

- filho bem sejas viindo o m(oesteyr)o he prestes se te p(ra)z morar conosco dy-me como he teu nome. (F45v)

「若者よ、修道院へようこそ。私たちと住む気があるのなら、おまえの名を私に言いたまえ」

例 4) 助動詞 *ser* は不定詞

de g(ra)nde louvor p(er) que podem as almas seer chegadas a Deos. (F52r)

「魂が神に届いたかもしれないという大賛辞で」

[HAVER]

上で述べたように、VS は 13 世紀から 14 世紀にかけて書かれているので、まだ、助動詞に *ter* よりも *haver* を用いた使用例が多く見られる。実際、複合時制で用いられていた 3 つの助動詞のうち、*haver* が選ばれているケースが最も多く、その活用形の種類も豊富である。その中で、現代語では目にすることはない、*haver* の完了過去+*p.p.* という形を 1 例 (例 7) 確認することができた。

直説法現在形	5
直説法未完了過去形	10
直説法完了過去形	1
接続法現在形	1
不定詞	2
計	19

例 5) 助動詞 *haver* は直説法現在形

Depois desto do(us) dias dormindo Pelagia com sua madre Romana veo o diaboo e disse:

- O mynha senhora e amyga Margarida que mal te hey eu fecto? (F80v)

「この後ペラジアは母ロマナとともに 2 日間眠っているところに悪魔がやってきてこういったーマルガリーダお嬢さん、私があなたに何を悪いことしたというのでしょうか」

例 6) 助動詞 *haver* は直説法未完了過去形

E diz que daly donde estava víia a gl(or)ia daq(ue)lles p(er) onde passara. e víia as penas que avia leixadas. (F135v)

「(彼が) いたあの場所から、自分が通ってきたあの物たちの栄光と、彼がそのままにしてきた苦しみが見えると言う」

例 7) 助動詞 *haver* は直説法完了過去形

E des que o ouve rrecebydo começou de dar muitas graças a Deos e dizer. (F124r)

「それを受け取ってから神に感謝を捧げ、話し始めた」

例 8) 動詞 *haver* は接続法現在形

cousa que eu ja nom aja feyta (F51v)

「私がしていないようなこと」

例 9) 助動詞 *haver* は不定詞

Oo senhor poderoso a(os) quorenta dias pasad(os) da tua maravilhosa resurreçom en os q(ua)es p(er) exp(er)iencias c(er)tas mostraste aaveres resuscitado per ti quebrantad(os) os infern(os) (F91v)

「全能の神よ、あなたのすばらしい復活からの 40 日間、その間に確かな経験によって、あなたは地獄をあなた自身で打ち破って復活したのだということを示したのであったが、その 40 日が過ぎて、」

[TER]

Ter を伴った複合時制は、5 例と少なく、活用形の種類も 2 種類に限られていた。

直説法現在形	3
gerúndio	2
計	5

例10) 助動詞 **ter** は直説法現在形

E o abade Panuncio foy hu ella jazia e disse-lhe: - P(er)doado te tem Deos os teus pecados. (F67v)

「パヌンシオ司祭は彼女が寝ていたところに行きこういった一神はあなたの罪を許した」

例11) 助動詞 **ter** は gerúndio

Con lagrimas continuadas teendo as mãã(os) alçadas ao ceo calou hum pouco e depois oolhou contra os hirmã(os) (F89v)

「天に向かって涙を流しながら両腕を広げ、少し黙りそして兄弟たちのほうを見た」

### 3. 考察

つぎに、上で見た結果を、複合時制がどのような意味で用いられているかという視点に基づいて分類する。

#### [HAVER]

VS に現れる **haver** の直説法現在形+p.p.は 5 例で、その内訳は、「複合過去」の意味で用いられていると思われるものが 4 例 (例 12), 「所有」の意味で用いられている可能性のあるものが 1 例 (例 14) であった。

「多くのロマンス諸語において **habeo**+p.p.型複合形が単純系を駆逐し、今日では複合形が純粋な過去をあらわすようになっている」のに対して、ポルトガル語はこれとは異なる変化の道をたどり、「単純形の圧倒的優勢のもとに複合形は発展にいたらなかった」(彌永 1986) とされる。VS では、少数だが、複合形で過去をあらわしている用例も、まだ見られる。

また、例 13 のように、**haver** が単独の動詞として、「存在」の意味だけでなく「所有」の意味で用いられている可能性のある例がいくつか見られた。例 14 は、**haver** が「所有」の意味を保持しながらも、助動詞としても用いられていると考えることができるかもしれない。

	直説法現在形
複合過去	4
所有	1

計	5
---	---

例 12) - tu mora dentro no moesteiro assy como te ey d(i)cto e nom ssayas fora assy como manda ha rregla (F62v)

「俺がお前に言ったようにお前は修道院で寝泊りするのだ,そして規則の通り外に出てはならない」

例 13) huu homem que avia nome Paunucio (F48r)

「パヌンシオという名前を持っていた男」

例 14) pois hu he aq(ue)lla mís(er)iicordya, que eu ey tantas penas passadas. (F128v)

「私がたくさんの苦しみを経験してきたあの救貧院があるところに」

他方,直説法未完了過去形+p.p.の形 10 例は,すべて「過去完了」の意味で用いられていた。

中世ポルトガル語には,ter または haver の直説法完了過去形+p.p.という形<sup>5)</sup>も存在した。これは,「過去完了」をあらわす表現で,VS での例(例 7)もこの意味で用いられていた。

#### [TER]

現代ポルトガル語の現在完了(ter の直説法現在形+p.p.)は,ある行為の「反復」あるいは「継続」をあらわす表現とされる<sup>6)</sup>。しかし,この現代的意味の由来について,詳しいことは明らかになっていないという(彌永 1986)。VS で見られた ter の直説法現在形+p.p.の形 3 例は,いずれも「過去」の意味で用いられていると考えることもできるが,同時に「現代的意味」を持ち合わせていると考えることも不可能ではないだろう。

例 10) E o abbade Panuncio foy hu ella jazia e disse-lhe: - P(er)doado te tem Deos os teus pecados. (F67v)

「パヌンシオ司祭は彼女が寝ていたところに行きこういった一神はあなたの罪を許した」

例 15) de aq(ue)lles bees p(er)duravéés que tem guardados p(er)a os seus amigos. (F137r)

「あなたの友のためにとって置いた資産」

例 16) q(ua)nto Deos tem guardado p(er)a os que o amã. (F132r)

<sup>5)</sup> フランス語の前過去に相当する。

<sup>6)</sup> 現在完了の意味については,例えば Teyssier (1976)。

「神は自分を愛するものたちをどれほど守ったことか」

例 17 は **ter** が **gerúndio** で用いられている例で、意味は「所有」と考えられる。ただし、**haver** の意味する「所有」とは異なり、「何かを所有し、それを保持する」という意味で用いられている。

例 17) **lançou-sse em terra e jazendo e teendo os pees do s(an)c(t)o bispo Nono e sua cabeça cub(er)ta de ciinza,**

「地面に横になり、聖ノノ神父の足と灰で覆われたその頭を持って」

#### 4. 目的語と過去分詞の性数一致

VS で見られた複合時制 (**haver**, **ter**) の中で、過去分詞が目的語と性数一致しているものを数えあげると次のような結果が得られる<sup>7)</sup>。

	<b>haver</b>	<b>ter</b>
直説法現在形	1	1
直説法未完了過去形	7	-
接続法現在形	1	-
不定詞	1	-
<b>gerúndio</b>	-	2
計	10	3

所有をあらわす **haver**, **ter** を用いた複合時制では、古くは過去分詞と目的語が性数一致していた。しかし、次第に性数一致が行われなくなり、**haver**, **ter** の所有の意味は薄れていった。現代ポルトガル語では、過去分詞は無変化となり、**ter** (**haver**) は所有の意味を失い、助動詞となっている。

例 6) **E diz que daly donde estava víia a gl(or)ia daq(ue)lles p(er) onde passara. e víia as penas que avia leixadas.** (F135v)

「(彼が) いたあの場所から、自分が通ってきたあの物たちの栄光と、彼がそのままにしてきた苦しみが見えると言う」□一致

例 10) **E o abbade Panuncio foy hu ella jazia e disse-lhe: - P(er)doado te tem Deos os teus pecados.** (F67v)

「パヌンシオ司祭長は彼女が寝ていたところに行き、こういった一神はあなたの罪を許

<sup>7)</sup> ただし、目的語が男性単数のものは除いている。

した（ている）」□不一致

例 6) で、過去分詞 (leixadas) と、目的語 (as penas) の一致が見られるが、例 10) では、過去分詞 (perdoado) が男性単数形であるのに対し、目的語 (os teus pecados) は女性複数形となっており、一致は見られない。

VS ではほとんどの場合で過去分詞が目的語と性数一致していた。このことから、まだ、過去分詞が形容詞的性格を保持し、haver, ter が所有の意味を失っていなかったとも考えられる。

## 5. おわりに

今回の *Vidas de Santos* の調査から、主に次のようなことが言える。

- ・ ter の複合時制の例が少ない
- ・ haver の所有表現がまだ多い（単独の動詞でも助動詞でも）  
例 14 のような haver が所有の意味を保持したままの、いわば「発展段階」といえるような複合時制などの例も見られた。
- ・ 現在完了形が現代語と同じ意味をすでに持っている可能性がある
- ・ 過去分詞と目的語の性数一致の例がまだ多い

また、研究を発展させるための課題としては次のようなことが挙げられる。

- ・ 単純形（完了過去）を調査対象に加え、「過去」の意味における複合形と単純形の分布を調査する。
- ・ 同様に、過去完了も単純形と複合形の分布を調査する。

今後、対象とするコーパスを増やすことで、この時代の複合時制の状況をより正確に把握することが可能であろう。同時に、前後する時代との比較を行い、複合時制の発展プロセスを跡づけられるのではないかと考えている。

## 資料体

CASTRO, Ivo (org.) 1985: *Vidas de Santos de um Manuscrito Alcobacense* (Coleção Mística de Fr. Hilário da Lourinhã, Cod. Alc. CCLXVI / ANTT 2274), Lisboa, Centro de Estudos Geográficos, I.N.I.C.

## 参考文献

ALI, Manuel Said 1931: *Gramática histórica da língua portuguesa*. Rio de Janeiro: Livraria Acadêmica.

— 1908: *Dificuldades da língua portuguesa*. Rio de Janeiro: Livraria Acadêmica.

- BRANDÃO, Cláudio 1963: *Sintaxe clássica portuguesa*. Belorizonte:Imprensa da UMG
- CUESTA, Pilar Vázquez y Luz, Maria Albertina Mendes da 1971: *Gramática portuguesa*. Madrid: Gredos.
- DIAS, Augusto Epiphany da Silva 1918: *Sintaxe histórica portuguesa*. Lisboa:Livraria Clássica Editora.
- HUBER, Joseph 1933: *Altportugiesisches Elementarbuch*. Heidelberg:Carl Winters.  
(Tradução portuguesa:*Gramática do português antigo, 1986*. Lisboa:Fundação Calouste Gulbenskian.)
- 彌永史郎 1986: 「ポルトガル語の複合過去」, 『ロマンス語研究』19. 日本ロマンス語学会.
- LAPA, Manoel Rodrigues 1982: *Estilística da língua portuguesa*. São Paulo:Martins Fontes.
- 太田亨 2004: 「ポルトガル語の単純形式と複合形式の機能分担に関する多角的視点からの考察」, 『スペイン語学論集－寺崎英樹教授退官記念－』. 東京:くろしお出版.
- SEQUEIRA, F. J. Martins 1943: *Aspectos do português arcaico*. Lisboa:Livraria Popular.
- STEN, Holger 1973: *L'emploi des temps en portugais moderne*. København:Munksgaard.
- TEYSSIER, Paul 1976: *Manual de langue portugaise. Portugal-Bresil*. Paris:Klincksieck.
- 1980: *Histoire de la langue portugaise*. Paris:P.U.F.(Coll. Que sais-je?).  
(Tradução portuguesa:*História da língua portuguesa, 1982*. Lisboa:Editora Sá da Costa.)